

2023 年

中國文化大學日本語文學系國際學術研討會

—SDGs の目標からみた日本語教育と

日本研究のダイバーシティー—

予稿集

2023 年中國文化大學日本語文學系國際學術研討會 —SDGs の目標からみた日本語教育と日本研究のダイバーシティ—

日時：2023 年 5 月 13 日（土）8：30—16：30

場所：中國文化大學曉峯紀念館國際會議廳・第 1 會議室・第 2 會議室・第 3 會議室

主催：中國文化大學日本語文學系

助成：行政院國家科學及技術委員會 台灣日本研究學會、中國文化大學日本研究中心

議事規則：講演 40 分、発表 20 分、コメント 05 分、質疑応答 05 分		
8：30—9：00	受付	
9：00—9：10	開会式・記念撮影	
9：10—9：50	基調講演Ⅰ 座長：徐興慶（東吳大學講座教授／中國文化大學特約講座教授） 講演者：郡 千寿子先生【日本】国立大学法人弘前大学教授兼副学長 題目：日本語教育と日本研究の展望—SDGs の目標とダイバーシティを意識して—	
9：50—10：05	休憩	
10：05—10：45	基調講演Ⅱ 座長：葉淑華（中國文化大學教授兼國際暨外語學院院長） 講演者：張根壽先生【韓国】祥明大学校教授／韓国日本語教育學會前会長 題目：異文化コミュニケーションと日本語教育—SDGs 目標 4〈質の高い教育をみんなに〉との関連を通して—	
10：45—11：00	休憩	
11：00—12：00 研究発表会（曉峯國際會議廳）		
座長：鍾季儒（中國文化大學助理教授）		
11：00—11：30	発表者：神作晋一（南台科技大學助理教授） 題目：「ますでしょう」「ませんでしょう」「ましたでしょう」について—大規模コーパス等を例とした日本語のダイバーシティ（多様性）— コメント：許夏珮（東吳大學副教授）	
11：30—12：00	発表者：杉村泰（日本国立名古屋大学教授） 題目：日本語の「行く」「来る」「帰る」の選択—日本語教育の多様性を目指して— コメント：林立萍（國立臺灣大學教授）	
12：00—13：00 昼食・休憩（第 2 會議室・第 3 會議室）		
13：00—14：00 研究発表会		
第 1 會議室	第 2 會議室	第 3 會議室
座長：沈美雪 （中國文化大學副教授）	座長：涂玉盞 （中國文化大學副教授）	座長：許容敏 （中國文化大學助理教授）
13：00—13：30		
発表者：武藤那賀子	発表者：黃耀儀	発表者：小高裕次

<p>(鹿児島国際大学准教授)</p> <p>題目：日本文学における月の場面—学問のダイバーシティとして地学の知識を古典文学に活かす—</p> <p>コメント：中村祥子</p> <p>(輔仁大學副教授)</p>	<p>(嶺東科技大學助理教授)</p> <p>題目：芹沢光治良と西川満の信仰観の比較考察—作品における天理教教祖と台湾媽祖の描写からの分析—</p> <p>コメント：王佑心</p> <p>(銘傳大學副教授)</p>	<p>(文藻外語大學助理教授)</p> <p>題目：情報提示の多様性—板書ツールとしてのアウトライナー—</p> <p>コメント：塚本善也</p> <p>(中國文化大學副教授)</p>
13：30—14：00		
<p>発表者：相田満</p> <p>(日本国立国文学研究資料館准教授・日本国立総合研究大学院大学准教授)</p> <p>題目：日本と中国における異相の聖性：身体障害が信奉された文化と伝承</p> <p>コメント：田里千代(中國文化大學客員教授・天理大学教授)</p>	<p>発表者：齋藤正志</p> <p>(中國文化大學教授)</p> <p>題目：体罰と教育—SDGs 目標 4 の観点から読む『百年泥』・『星月夜』—</p> <p>コメント：邱若山</p> <p>(靜宜大學兼任教授)</p>	<p>発表者：徐希農</p> <p>(銘傳大學助理教授)</p> <p>題目：日本茶道文化における学習者の多様性及びライフスタイルに関する研究</p> <p>コメント：樋口達郎</p> <p>(淡江大學助理教授)</p>
14：00—14：10 休憩		
14：10—15：10 研究発表会		
第 1 會議室	第 2 會議室	第 3 會議室
座長：齋藤正志 (中國文化大學教授)	座長：黃馨儀 (中國文化大學副教授)	座長：林孟蓉 (中國文化大學副教授)
14：10—14：40		
<p>発表者：西一夫</p> <p>(日本国立信州大学教授)</p> <p>題目：雅と俗—萬葉集卷十六の多様性—</p> <p>コメント：齋藤正志</p> <p>(中國文化大學教授)</p>	<p>発表者：黃馨儀</p> <p>(中國文化大學副教授)</p> <p>題目：日本と台湾の公共放送に放送されたドラマに描く戦争—SDGs 目標 5 及び目標 16 の観点から—</p> <p>コメント：王憶雲</p> <p>(淡江大學副教授)</p>	<p>発表者：黃金堂</p> <p>(中國文化大學副教授)</p> <p>題目：SDGs の観点から考えるテスラ社の発展方策—Model シリーズの AI 自然言語と日本語教育を中心に—</p> <p>コメント：中村香苗</p> <p>(淡江大學副教授)</p>
14：40—15：10		
<p>発表者：小池博明</p> <p>(日本国立長野工業高等専門学校教授)</p> <p>題目：『大江千里集』の特徴的な構文—SDGs の目標 4 のターゲット「さまざまな文化」の理解と和歌構文の多様性—</p>	<p>発表者：本間美穂</p> <p>(銘傳大學助理教授)</p> <p>題目：SDGs の観点からコロナ禍の台湾における大学オンライン授業の一考察—私立 X 大学応用日本語学科を事例として—</p>	<p>発表者：蔡豐琪</p> <p>(銘傳大學副教授)</p> <p>題目：e-ラーニング教材を導入した初級日本語のカリキュラムデザイン—教材の多様化と学習持続化を促進する中心に—</p>

コメント：齋藤正志 (中國文化大學教授)	コメント：陳毓敏 (中國文化大學副教授)	コメント：陳順益 (中國文化大學副教授)
15：10－15：20 休憩		
15：20－16：20 研究發表會		
第1會議室	第2會議室	第3會議室
座長：塚本善也 (中國文化大學副教授)	座長：黃美惠 (中國文化大學副教授)	座長：黃金堂 (中國文化大學副教授)
15：20－15：50		
発表者：岩男考哲 (神戸市外国語大学教授) ・宮地弘一郎 (日本国立信州大学准教授) 題目：小学校教科書における出現 品詞と子どもの発達—子どもの多 様性に応えるために— コメント：頼錦雀 (東呉大學特聘教授)	発表者：市原乃奈 (拓殖大学准教授) 題目：特別支援学級に所属する中 学生と大学生のパートナーシップ 交流から得られたもの—日本語コ ミュニケーション能力と Diversity 意識醸成に着目して— コメント：孫寅華 (淡江大學副教授)	発表者：岡田博子 (明治大学兼任講師) 題目：小林一茶 階層、年齢、 地域を超えた交友と教育— ダイバーシティー(多様性の 尊重)を可能にした教育— コメント：黃佳慧 (輔仁大學助理教授)
15：50－16：20		
発表者：小山直則 (淡江大學副教授) 題目：日本語学習人口と訪日観光 の持続可能性 コメント：林冠汝 (真理大學副教授)	発表者：名嶋義直 (日本国立琉球大学教授) 題目：持続可能な学びの獲得を目指し た日本語教育—日本語教育副専攻科目 と上級留学生科目との共修— コメント：江雯薰 (淡江大學教授)	
16：20－16：30	閉会式	

目次

基調講演

郡 千寿子「日本語教育と日本研究の展望—SDGs の目標とダイバーシティを意識して—」
P.7-P.14

張根壽「異文化コミュニケーションと日本語教育 —SDGs 目標 4〈質の高い教育をみんなに〉との関連を通して—」
P.15- P.23

研究発表 (午前の部)

神作晋一「「ますでしょう」「ませんでしょう」「ましたでしょう」について—大規模コーパス等を例とした日本語のダイバーシティ (多様性) —」
P.24-P.31

杉村泰「日本語の「行く」「来る」「帰る」の選択—日本語教育の多様性を目指して—」
P.32-P.39

研究発表 (午後の部)

武藤那賀子「日本文学における月の場面—学問のダイバーシティとして地学の知識を古典文学に活かす—」
P.40-P.46

相田満「日本と中国における異相の聖性：身体障害が信奉された文化と伝承」
P.47-P.52

黄耀儀「芹沢光治良と西川満の信仰観の比較考察—作品における天理教教祖と台湾媽祖の描写からの分析—」
P.53-P.61

齋藤正志「体罰と教育—SDGs 目標 4 の観点から読む『百年泥』・『星月夜』—」
P.62-P.68

小高裕次「情報提示の多様性—板書ツールとしてのアウトライナー—」
P.69-P.74

徐希農「日本茶道文化における学習者の多様性及びライフスタイルに関する研究」
P.75-P.82

西一夫「雅と俗—萬葉集卷十六の多様性—」
P.83-P.90

小池博明「『大江千里集』の特徴的な構文—SDGs の目標 4 のターゲット「さまざまな文化」の理解と和歌構文の多様性—」
P.91-P.99

黄馨儀「日本と台湾の公共放送に放送されたドラマに描く戦争—SDGs 目標 5 及び目標 16 の観点から—」
P.100-P.107

本間美穂「SDGs の観点からコロナ禍の台湾における大学オンライン授業の一考察— 私立 X 大学応用日本語学科を事例として—」
P.108-P.115

黄金堂「SDGs の観点から考えるテスラ社の発展方策—Model シリーズの AI 自然言語と

- 日本語教育を中心に― _____ **P.116-P.123**
- 蔡豊琪「e-ラーニング教材を導入した初級日本語のカリキュラムデザイン―教材の多様化と学習持続化を促進する中心に―」 _____ **P.124-P.131**
- 岩男考哲・宮地弘一郎「小学校教科書における出現品詞と子どもの発達―子どもの多様性に応えるために―」 _____ **P.132-P.139**
- 小山直則「日本語学習人口と訪日観光の持続可能性」 _____ **P.140-P.147**
- 市原乃奈「特別支援学級に所属する中学生と大学生のパートナーシップ交流から得られたもの―日本語コミュニケーション能力と Diversity 意識醸成に着目して―」 _____ **P.148-P.155**
- 名嶋義直「持続可能な学びの獲得を目指した日本語教育―日本語教育副専攻科目と上級留学生科目との共修―」 _____ **P.156-P.163**
- 岡田博子「小林一茶 階層、年齢、地域を超えた交友と教育―ダイバーシティー(多様性の尊重)を可能にした教育―」 _____ **P.164-P.171**